

**佐賀大学附属図書館
自己点検・評価書
令和2年度**

令和3年12月

**佐賀大学
学術研究協力部情報図書館課**

目 次

I	附属図書館の目標・計画	1
II	附属図書館の概要	3
III	領域別評価	
1	教育支援	4
	(1) 資料の計画的収集	
	(2) 資料の提供・活用	
	(3) 情報リテラシー教育支援（図書館オリエンテーション）	
	(4) 学外図書館からの文献入手（図書館間相互貸借 ILL:Inter Library Loan）	
	(5) 読書奨励	
	(6) 自学自習環境の整備	
	(7) 広報	
	(8) 評価及び課題	
2	研究支援	8
	(1) 研究用資料の収集	
	(2) 電子ジャーナル	
	(3) 文献等データベース	
	(4) 研究情報・文献情報の電子化	
	(5) 評価及び課題	
3	社会貢献	9
	(1) 市民への情報サービス	
	(2) 公開講座（講演会、展示会）	
	(3) 貴重資料	
	(4) 貴重資料の利用	
	(5) 評価及び課題	
4	組織運営	11
	(1) 組織の編成・管理運営	
	(2) 財務	
	(3) 評価及び課題	
5	施設・設備	14
	(1) 施設、設備等の整備状況	
	(2) 施設、設備等の利用状況	
	(3) 評価及び課題	

I 附属図書館の目標・計画

1 第3期中期目標期間（平成28年度～令和3年度）における目標及び計画

附属図書館は、本学の行う教育、研究に関わる学術情報を収集・蓄積し、効率的に提供する。また、学生の自発的な学修・研修を実施するラーニング・コモンズ施設を整備し教育の質的転換を推進すると同時に、学生の就職活動、本学に在籍している外国人留学生及び海外に留学する学生支援などのため、体系的かつ網羅的に図書館資料を収集し、情報ネットワークを整備して、より効果的な学修環境を提供する。さらに、本学の社会貢献のひとつとして、地域に開かれた生涯学習の活動を推進して行く。

(1) 教育に関する目標・計画

【目標】

教育の質的転換を推進するために、学生及び教員の自発的な学修・研修を実施するラーニング・コモンズ施設などを整備し活用する。(第3期中期計画番号008に該当)
正課外における就職活動支援策を強化する。(第3期中期計画番号017に該当)

【計画】

- 1) ラーニング・コモンズの利用状況を調査し、効果的な利活用を促進する。
- 2) 学生の就職活動を支援するため、キャリアセンター等と連携して関連する図書を附属図書館に整備する。

(2) 研究に関する目標・計画

【目標】

研究成果の社会への還元に関する具体的方策を講じる。(第3期中期計画番号022に該当)

【計画】

研究成果の社会への発信を支援するため、本学の研究成果を機関リポジトリに登録して情報発信する。

(3) グローバル化に関する目標・計画

【目標】

交換留学生や短期留学生の受入れ環境を充実させる。(第3期中期計画番号039に該当)
海外留学派遣者数を増加させるためのサポートを充実させる。(第3期中期計画番号040に該当)

【計画】

- 1) 外国人留学生を支援するため、国際交流推進センター等と連携して、外国人留学生向けの関連する図書を附属図書館に整備する。
- 2) 本学学生の海外留学支援のため、国際交流推進センター等と連携し、学生の海外志向に関する図書を附属図書館に整備する。

(4) 経費の抑制に関する目標・計画

【目標】

人件費以外の経費を抑制するため、光熱水等の使用量を第2期中期目標期間の最終年度より3%削減する。(第3期中期計画番号063に該当)

【計画】

令和元年度実績を踏まえ、光熱水等の経費削減目標を設定し、管理的経費を削減する。

(5) 法令遵守等に関する目標・計画

【目標】

大学活動全般、学内規則を含めた法令遵守に関する啓発活動等に取り組む。(第3期中期計画番号に071該当)

【計画】

附属図書館本館および医学分館において、災害、事故等に備えるために防災訓練等を実施する。

II 附属図書館の概要

【資料】 II-1 蔵書数、II-2 図書受入冊数、II-3 雑誌受入種類数、III-1-2 電子書籍導入状況 III-2-1 電子ジャーナル導入状況、III-2-3 文献等データベース、III-5-1 面積・閲覧 座席数・書架収容力

附属図書館は、教育学部（文化教育学部）、芸術地域デザイン学部、経済学部、理工学部、農学部がある本庄キャンパスに本館、医学部がある鍋島キャンパスに医学分館を配置する。

（1）施設・設備

本館は、鉄筋4階建てで総面積5,332㎡である。ラーニング・コモンズ、閲覧室、閲覧個室、グループ学習室、マルチメディアコーナー等の利用者用スペースと、会議室、事務室等の管理スペース及び書庫等を有する。1階から3階が利用者用スペースとなっている。利用者用スペースには座席629席を備え、無線LANなどネットワークを利用した学修環境を整備し、学生及び研究者の学修、研究の能率向上を図るよう配慮している。

本庄キャンパスには本館建物の他に旧館書庫332㎡を有する。

医学分館は、鉄筋2階建てで総面積1,769㎡である。座席192席を備え、無線LANなどネットワークを利用した学修環境を整備し、図書等の蔵書構成、配置等について十分に検討し、自学自習が効率よくできるよう配慮している。

両館とも設備・備品として、退館管理システム（BDS）、図書自動貸出返却装置、全館冷暖房設備、エレベータを備えている。また、館内では、パソコン・視聴覚機器を設置している席を除き、密封できる容器に入った飲み物の飲用を認めている。

（2）図書館資料

本庄キャンパスでは、図書（視聴覚資料を含む、以下同じ）は、教育研究組織・教育課程に即し、医学・看護学を除いたほぼ全分野にわたる資料570,339冊を所蔵している。内訳は、和書403,794冊、洋書166,545冊である。

雑誌は、人文・社会・自然各分野にわたる国内外の学術雑誌、大学論集、紀要等合わせて9,521種類を所蔵する。また、附属図書館閲覧室に配架の学習用雑誌は、学術雑誌から就職に関わる受験雑誌等まで幅広く収集し、提供している。

医学分館では、図書は、医学・看護学を中心に113,763冊を所蔵している。内訳は、和書69,351冊、洋書44,412冊である。雑誌は、医学・看護学関連雑誌を中心に一般教養雑誌を含め2,364種を所蔵している。図書・雑誌ともすべて開架書架に配架し、提供している。

また、全学で利用できる電子的資料として、文献等データベース8種及び、主要出版社の電子ジャーナルをはじめとして全5,565種の電子ジャーナル、19,665点の和書・洋書の電子書籍へのアクセスが可能となっている。

Ⅲ 領域別評価

1 教育支援

(1) 資料の計画的収集

【資料】Ⅱ-1 蔵書数、Ⅱ-2 図書受入冊数、Ⅱ-3 雑誌受入種類数、Ⅲ-1-2 電子書籍導入状況、Ⅲ-1-3 電子書籍アクセス数、Ⅲ-1-4 図書除籍冊数

本館

①資料費の確保

教育・学修支援を使命とする附属図書館では、学生用図書、電子情報資料等（以下、学生用資料）の資料費の確保は最も重要な課題の一つである。資料費は法人化直前に大学の経常経費として認定され、法人化後は図書館への基本予算として計上されている。

②学生用資料の選定と収集

学生用資料は、本学教員と図書館職員で構成する附属図書館選書専門委員会で購入計画を立案し、計画的に収集を行っている。

学生リクエストの活用や学生選書の実施、就職支援や留学支援等、関係部署と連携しての選書等、様々なニーズに対応する取り組みを行いながら、学生用図書の整備に努力している。

③シラバス掲載参考書

学習用図書として特に重点的に収集を図る必要がある資料として、シラバスに掲載されている参考書がある。新年度当初にシラバス掲載参考書を利用できる状態にするには前年度内に資料を購入し整理しておく必要があり、教員、学務部の協力によるシラバスの早期登録、シラバス中の図書情報の体系的な抽出により実現している。

令和2年度は、参考書の指定があった全科目について発注し、117冊購入した。また、電子書籍化されている参考書については電子書籍216点を購入した。

④学生希望図書

学生が図書館で読みたい図書をリクエストできる「学生希望図書制度」をWebシステムで運用している。リクエストされた図書は館内で審議を経て購入している。令和2年度は39冊購入した。

⑤学生選書

読書奨励企画として、本館及び医学分館の選書を希望する学生を公募し、選書を実施している。令和2年度はコロナ禍のため、オンライン選書として、学生各自がWebサイトから図書を選書した。182冊を購入し、図書館入口に近い場所に特設コーナーを設置して配架した。

⑥佐賀大学の年度計画実施に関連する図書の収集

学生の就職活動支援のため、キャリアセンターと連携して就職活動に関連する図書92冊、本学に留学してくる外国人留学生支援のため及び本学学生の海外留学支援のため、国際交流推進センターと連携して関連する図書を98冊整備した。

⑦電子書籍

シラバス掲載の参考書を中心に、学外からもアクセス可能な電子書籍の整備に努めた。また、令和3年度に向け、学外からもアクセス可能な新刊小説、文学賞受賞作品、就活支援図書等を収載する電子書籍を整備した。

⑧資料の除籍

書架の利便性の向上を図るため、旧版図書や受入後一定年数経過した図書を書架から除き、458冊の除籍を行った。

⑨蔵書点検

蔵書点検計画に基づき、製本雑誌、視聴覚資料、書庫2階、旧館書庫（NDC6、8、旧制佐高教学～文学）、研究室貸出図書（農学部、全学教育機構、センター関係）について、該当図書の点検を実施した。

医学分館

医学分館における研究用及び教育用の図書・雑誌の整備は、医学部教員で構成される医学分館運営委員会で検討を行っている。医学部のシラバスに掲載された参考書はすべて収集しているほか、医学部教員等に図書の推薦を依頼している。学生リクエストの活用や学生選書の実施により、学生目線の選書にも留意している。

また、医学・看護学という専門の性格上、常に最新版の資料を収集するよう留意している。所蔵する専門図書、参考書の改版・新版等を積極的に収集するとともに、改版等や年月の経過により利用価値を減じた図書3,504冊を除籍し、書架の活性化に努めている。令和2年度は、蔵書点検計画に基づき、製本雑誌、レビュー誌、研究室貸出図書について蔵書点検を実施した。

（2）資料の提供・活用

**【資料】Ⅲ-1-1 利用対象者数、Ⅲ-1-5 開館時間、Ⅲ-1-6 年間開館日数等、Ⅲ-1-7 入館者数
Ⅲ-1-8 貸出条件、Ⅲ-1-9 館外貸出状況**

1) 開館時間等

本館・医学分館

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年3月16日～6月14日まで臨時休館、6月15日から令和3年3月31日まで、土・日・祝日、平日の時間外を臨時休館として、開館時間を変更して開館を行った。

2) 貸出条件等

本館・医学分館

資料Ⅲ-1-8のとおり運用している。

3) 蔵書、文献検索システムの導入

蔵書に加えて、文献データベースや電子ジャーナルなど多様な情報を同一のインターフェースでまとめて検索するシステムを導入した。

(3) 情報リテラシー教育支援（図書館オリエンテーション）

【資料】Ⅲ-1-10 オリエンテーション実績（本館）

本館・医学分館

例年 4 月中旬から 5 月末を中心に、授業担当教員の依頼により指定された授業時間を使用して「図書館オリエンテーション」を行っているが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、図書館を臨時休館したため、対面での実施はできなかった。代替として、図書館の利用案内及び文献入手法資料を図書館ホームページに掲載し、資料の配布を実施した。また、一部の教員からの要望を受け、オンラインによる案内を実施した。

(4) 学外図書館からの文献入手（図書館間相互貸借 ILL : Inter Library Loan）

【資料】Ⅲ-1-11 図書館間相互貸借冊数、Ⅲ-1-12 図書館間の文献複写件数

本学は国立情報学研究所の NACSIS-ILL システムを利用しているが、同システムの報告では国立大学全体で利用件数が減少している。これは各国立大学が電子ジャーナル・パッケージを導入したために、各大学で読むことのできるタイトル数が飛躍的に増えたことによる影響と考えられる。本学においても、文献複写や図書の貸借件数が依頼、受託とも減少傾向にある。

しかしながら、世界的な発表文献数の増加も手伝い、入手の難しい文献についての取り寄せ依頼の割合が増えているため、また、冊子の所蔵調査に留まらず、電子ジャーナルとして公開されていないか調査を行う必要があるため、処理件数の減少は業務量の減少には直結していない。

(5) 読書奨励

1) 読書奨励キャンペーンの実施

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、本庄キャンパスへの学生入構が制限されていたが、10 月に入構が緩和されたことを受け、学生の読書奨励を目的として「Go To Read キャンペーン」を実施した。「Go To Read キャンペーン」は、貸出ごとにポイントを付与し、ポイントをためて景品（図書館で購入している雑誌の付録）をプレゼントするものである。ポイントをため景品を受け取った学生は 68 名であった。

(6) 自学自習環境の整備

【資料】Ⅲ-5-1 面積・閲覧座席数・書架収容力、Ⅲ-5-2 図書館利用者用端末台数 Ⅲ-5-3 アクティブ・ラーニング・スペース、Ⅲ-5-4 グループ学習室の設備

本館

利用者の多様な学習スタイルに対応するため、グループ学習室 5 室、閲覧個室 4 室、マルチメディアコーナーを設置している。また、総合情報基盤センター内演習室と同じ環境で利用できる利用者用端末を 58 台、閲覧検索専用端末を 13 台設置している。令和 3 年 3 月 1 日の総合情報基盤センター学術情報基盤システムの更新に伴い、BYOD（個人所有端末の利用）の方針に基づき、利用者用端末は 3 台に減少した。

令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、席の間引き、閲覧机へのアクリル板設置を行った。また、グループ学習室、閲覧個室、マルチメディアコーナー、端末の利用を停止した。

医学分館

利用者の多様な学習スタイルに対応するため、ビデオ・スライド室2室、LL室、多目的学習室を設置している。多目的学習室には可動式の机・椅子を配置し、ラーニング・コモンズとして活用できるように整備している。また、総合情報基盤センター内演習室と同じ環境で利用できる利用者用端末を60台設置している。令和3年3月1日の医学教育情報システムの更新に伴い、BYOD（個人所有端末の利用）の方針に基づき、利用者用端末は12台に減少した。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、席の間引き、閲覧机へのアクリル板設置を行った。また、ビデオ・スライド室2室、LL室、多目的学習室、端末の利用を停止した。

(7) 広報

【資料】Ⅲ-1-13 図書館 Web ページのアクセス数

1) 図書館 Web サイト、SNS

本学の学生・教職員・学外の方を対象に、図書館の利用案内、施設案内、蔵書検索案内、図書館の諸活動について記録した図書館報等の情報を発信している。平成24年度から運用してきた図書館 Web サイトのデザインの一新を図り、スマートフォンやタブレット端末にも最適な表示を実装するマルチデバイス対応を行った。また、ツイッターを利用し、新刊本の入荷、イベント等の情報を発信している。また台風による臨時閉館など緊急情報を広く周知する場合にもツイッターで発信している。

2) 広報誌

学生をターゲットにした情報誌「さらり」を年1回4月に発行している。

3) 電子メールによる広報等

教職員向けに講演会の開催案内、データベース・トライアルの案内、臨時休館等、図書館サービスの案内を電子メールにより配信している。学生向けには、学生情報システム（ライブキャンパス）を使って電子メールの配信や、お知らせの掲示を行っている。

(8) 評価及び課題

評価

コロナ禍の影響で入館者が減少する中、電子書籍の利用が前年度比約36%増加しており、学生が継続して学習できるように自宅等からも利用できるシラバス掲載の参考図書を電子書籍で購入する等、学修環境の整備が図られている。

課題

- 1) 令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学生の大学への入構制限や図書館の臨時休館が続いたことから、入館者数・貸出数ともに前年度以前と比べ大きな減少になっている。コロナ禍で学生の足が図書館から遠のいているので、図書館の利用促進が今後の課題である。また、来館を促進する工夫を続けていくことに加え、ウェブを活用した取り組みも実施していく。
- 2) 学生用図書として学外からも利用できる電子書籍の充実を図り、電子書籍の周知のために広報を強化する。

2 研究支援

(1) 研究用資料の収集

図書、学術雑誌その他の教育研究上必要な資料は附属図書館長の管理下に置き、附属図書館、学部、センター等に配置している。

資料の有効利用のため、附属図書館では図書、学術雑誌、電子ジャーナル等すべての資料を包含した蔵書データベースを維持管理し、所蔵・配置等の最新情報を Web 上で公開して利用の便を図っている。

本庄キャンパスの図書配置割合は、附属図書館約 80%、部局等約 20%である。学術雑誌は、附属図書館に農学・理工系学術雑誌を集中的に配架し、利用に供している。一部の学部等では、学部や学科等の単位で図書資料室を置き、専門領域に関する図書・雑誌をはじめ国内外の大学論集・紀要等を収集配架している。

鍋島キャンパスでは、旧医科大学時代から全図書、全雑誌を医学分館に集中配架し、教員、学生・院生の研究及び教育に供している。

(2) 電子ジャーナル

【資料】Ⅲ-2-1 電子ジャーナル導入状況、Ⅲ-2-2 電子ジャーナルアクセス数

本学教員に対して令和元年度に実施した電子ジャーナル整備検討に関するアンケート結果を踏まえ、令和 3 年度から令和 5 年度まで、エルゼビアパッケージ、シュプリンガーパッケージ、ネイチャー本誌を継続契約することを決定した。

(3) 文献等データベース

【資料】Ⅲ-2-3 文献等データベースサービス

中央経費により契約しているスコーパスを令和 3 年度から令和 5 年度まで継続契約することを決定した。

(4) 研究情報・文献情報の電子化

【資料】Ⅲ-2-4 佐賀大学機関リポジトリ登録数及び閲覧数

「佐賀大学機関リポジトリ」は紀要論文、博士論文を主として収集している。紀要論文の多くは、登録時の著作権処理について各部局との交渉を進め、包括許諾を得ているため、刊行のたびに著作権処理をすることなく登録可能であり、継続して登録を進めている。

(5) 評価及び課題

評価

佐賀大学機関リポジトリシステムの更新を行い、新システムでは、DOI (デジタルオブジェクト識別子) を導入し、利用者がアクセスしやすい仕組みが導入され、効果的な情報発信が図られている。

3 社会貢献

(1) 市民への情報サービス

【資料】Ⅲ-3-1 市民への貸出状況

1) 入館、館内サービス

令和元年度まで市民の入館、貸出を実施していたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、市民の入館、情報サービスを制限した。

2) 佐賀県内図書館等との文献複写・相互貸借サービス

本館・医学分館ともに公共図書館等からの依頼に応じ、文献複写・相互貸借サービスを行っている。医学分館は近隣の病院図書室等からの依頼にも応じている。

相互貸借は『佐賀県公共図書館と佐賀県大学図書館間の相互貸借規程』に基づき運用している。

3) 佐賀県内図書館横断検索システム

佐賀県立図書館、県内の市町村立図書館及び県内の大学図書館の所蔵図書を横断的に検索できる佐賀県内図書館横断検索システムに参加し、県内の図書館と一体となった地域への蔵書検索サービスの提供を行っている。

4) 看護学教育研究支援センターとの連携

看護学教育研究支援センター所属の看護師に対して、指導教員と連携して利用者登録の申請手続きを案内し、医学・看護学の専門書の貸出及び文献複写取寄せサービスを行っている。

(2) 公開講座(講演会、展示会)

【資料】Ⅲ-3-2 図書館月間講演会 Ⅲ-3-3 図書館月間展示会

附属図書館では、市民に生涯学習の場を提供することを主目的として、毎年11月を「図書館月間」と称して、講演会、貴重資料展示等を行っている。

令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、講演会の開催を見送った。展示会は学内者へ向け、所蔵コレクション「大内文庫」(俳諧資料)の展示を行った。

(3) 貴重資料

【資料】Ⅲ-3-4 附属図書館所蔵コレクション

佐賀鍋島の支藩、小城の鍋島家に伝えられた資料、佐賀や北九州の近世文学・民俗学研究で知られた故市場直次郎のコレクション等を所蔵している。

(4) 貴重資料の利用

【資料】Ⅲ-3-5 貴重資料の利用

1) 貸出

毎年、地域学歴史文化研究センターと佐賀県小城市教育委員会の共催で開催される企画展等に

貴重資料を貸し出している。

令和2年度は、以下のとおり貴重資料の提供を行った。

- ・佐賀大学美術館の展示会「美術館で身体を考える」に小城鍋島文庫から「和漢三才図絵」「人工體普録」の2点を貸し出した。
- ・地域学歴史文化研究センターと小城市教育委員会共催の展示会「小城藩日記の世界-近世小城200年の記憶-」に小城鍋島文庫から「小城藩日記 天和2年」ほか19点を貸し出した。

2) 貴重資料のデジタル公開

高精細な画像を用いて、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスの条件に基づき附属図書館貴重資料デジタルアーカイブを公開した。

クリエイティブ・コモンズ・ライセンス： <https://creativecommons.jp/licenses/>

3) 画像データの利用

所蔵コレクションの画像を用いて、地域学歴史文化研究センターが「小城藩日記データベース」を公開している。

4) 展示、講演会

図書館月間において、貴重書コレクション「大内文庫」（俳諧資料）の展示を行った。

5) 保存

令和元年度に貴重資料を長期保存、利活用していくために、除湿機の新規設置、空調機の更新等を行っており、書庫内の温湿度等の環境をモニタリングしている。

(5) 評価及び課題

評価

クリエイティブ・コモンズ・ライセンスの条件のもと、世界標準の国際規格 IIIF に対応した附属図書館貴重書デジタルアーカイブを公開したことにより、利用希望者が図書館へ利用申請を行うことなく二次利用が可能となり、利便性の向上が図られている。

課題

図書館月間のイベント内容に対するニーズを把握するため、参加者にアンケート調査を行い改善していく。

4 組織運営

(1) 組織の編成・管理運営

【資料】Ⅲ-4-1 附属図書館組織・機構図

1) 館長・副館長

附属図書館は、平成30年4月に現在の館長、副館長制で諸般の課題解決に当たることとした。図書館長は、附属図書館の業務を掌理し、附属図書館に設置した各種委員会の委員長として審議の取りまとめを行うとともに、学内の教育研究評議会等の委員として大学の管理運営に参画している。

2) 運営委員会

①附属図書館運営委員会

平成16年4月の法人化後、佐賀大学図書館規則第5条第1項の規定に基づき、佐賀大学附属図書館運営委員会を設置した。医学分館には、佐賀大学図書館規則第6条第2項に基づき附属図書館医学分館運営委員会を設置した。

佐賀大学附属図書館運営委員会は、附属図書館の運営方針、諸規程の制定・改廃、予算等に関する重要事項を審議する組織で、附属図書館長（委員長）、副館長、及び各学部から選出された教員6名、総合情報基盤センター長、全学教育機構副機構長、館長が指名した者として学術研究協力部長の合計11名で構成されている。また、附属図書館運営委員会の下に、附属図書館運営委員会から付託された事項の審議を行う専門委員会を設置している。

②附属図書館医学分館運営委員会

附属図書館医学分館運営委員会は医学分館の運営、諸規程の制定・改廃、予算等に関する事項を審議する組織で、副館長、医学部選出の附属図書館運営委員、医学部等鍋島地区の教員3名の合計5名で構成されている。

3) 専門委員会

①選書専門委員会

選書専門委員会は蔵書整備、学生用図書の収集、その他の図書館資料の選定収集に関することを掌る。

②貴重資料・地域貢献専門委員会

貴重資料・地域貢献専門委員会は、附属図書館所蔵の貴重資料の保存・公開・展示等及び附属図書館の地域貢献事業に関することを掌る。

③評価専門委員会

附属図書館の自己評価、中期目標・中期計画評価及び認証評価等に関することを掌る。

④電子ジャーナル等検討専門委員会

電子ジャーナル及び文献データベースの契約内容、経費負担の在り方等に関することを掌る。

4) 事務組織

【資料】Ⅲ-4-1 附属図書館組織・機構図 Ⅲ-4-2 附属図書館職員数

附属図書館の事務組織体制は、法人化後、人件費等管理運営経費の抑制及び効率的な大学運営による事務組織再編等により、令和2年4月現在では、情報図書館課長、副課長、総務主担当、図書・雑誌主担当、利用サービス主担当及び医学分館主担当の体制となっている。

5) 事務処理の効率化

研究用資料の購入依頼受付を Web ベースのシステムで行い図書館システムにデータとして取り込み、購入依頼受付から発注処理、発注状況の管理等を合理化している。また研究用資料の購入依頼時に必要となる財源の管理を、財務会計システムと図書館システムを連携させることにより効率化している。

他大学の紀要論文のうち、本文が機関リポジトリ及び CiNii で公開されているものは保存せず、書架狭隘化への対応及び業務の削減を図っている。

6) 危機管理

国立大学図書館地区協会助成事業「図書館の災害時対応に関するセミナー」（オンライン開催）に職員19名が参加した。また、医学部で実施した大規模地震対応消防計画に基づく災害訓練に医学分館の職員1名が参加し、本庄地区総合防災訓練に本館の職員8人が参加した。

7) 職員研修

【資料】Ⅲ-4-3 職員研修状況

職員研修について、従来は常勤職員のみを受講対象としていたが、現在は非常勤職員にも参加機会を提供している。県内図書館で実施されている研修やオンライン研修に積極的に参加しており、令和2年度は延べ34名が参加した。

(2) 財務

1) 予算

【資料】Ⅲ-4-4 図書館経費

令和2年度の配当額は、一般運営経費 66,326 千円、学長裁量経費(電子ジャーナル経費)50,000 千円であった。

本館

令和2年度の当初配分は、47,075 千円である。この中から図書館維持費として 31,450 千円図書購入費として 15,525 千円を充てた。また、電子ジャーナルの不足分として、科学研究費補助金等の間接経費から 25,000 千円・学長裁量経費から 1,235 千円の補填額があった。

医学分館

令和2年度の当初配分額は、19,251 千円である。この中から図書館維持費として 13,651 千円、図書購入費として 5,500 千円を充てた。

なお、医学分館は、法人化時の合意に基づき医学部及び附属病院からも別途図書購入費の配分を受けている。

2) 決算

【資料】Ⅲ-4-4 図書館経費

本館・医学分館

支出内容を精査し、適切に予算を執行した。

3) 経費節減

【資料】Ⅲ-4-4 図書館経費

電力量、水道量等の削減を主目標とした令和2年度経費削減計画を設定し、空調の温度管理の徹底、扇風機・エアコンでの並行空調、事務スペースの蛍光灯間引き等を実施し、コロナ禍の影響もあるが、第2期中期目標期間の最終年度（平成27年度）実績から3%削減の目標に対して、電気使用量約29%削減、水道使用量約84%が削減されている。

(3) 評価及び課題

評価

電気使用量、水道使用量等の経費削減に取り組み、コロナ禍の影響もあるが、第2期中期目標期間の最終年度（平成27年度）実績から3%削減の目標に対して、電気使用量約29%削減、水道使用量約84%削減できたことは評価できる。

5 施設・設備

(1) 施設・設備の整備状況

1) 施設・設備

**【資料】 Ⅲ-5-1 面積・閲覧座席数・書架収容力、Ⅲ-5-2 図書館利用者用端末台数
Ⅲ-5-3 アクティブ・ラーニング・スペース、Ⅲ-5-4 グループ学習室の設備**

図書館総面積は本館 5,332 m²、旧館 332 m²、医学分館 1,769 m² 合計 7,433 m²である。

閲覧座席数は本館 629 席、医学分館 192 席、合計 821 席である。本館（平成元年 3 月竣工）、医学分館（昭和 55 年 3 月竣工）とも竣工後建物及び設備の増築、大規模改修は行っていないが、ともに書架スペース以外の閲覧スペースを利用しやすく、明るい場所に置くなど基本設計において利用者への配慮を行っている。

また、利用者に快適な環境を提供するため、夏季の冷房、冬季の暖房運転の維持と設備、物品の充実を図っている。また全館を徹底した清掃を行い、快適な学修環境を提供することに努めている。

安全面では、本館、医学分館とも館内の要所に防犯カメラを設置している。また、医学分館では、セキュリティ対策として緊急通報ボタンを設置している。

バリアフリー面では、本館・医学分館ともに車椅子対応のためのスロープ及びトイレを設置し、エレベータにはマルチビームドアセンサーを設置している。また、日本語に不慣れな利用者のために、館内サインに日本語と英語を併記し、一部にはピクトサインを採用している。

なお、令和 3 年度の概算要求により医学分館の全面改修を行うことが決定した。

2) 書架・書庫

【資料】 Ⅲ-5-1 面積・閲覧座席数・書架収容力

本館、医学分館ともに収蔵力の不足は深刻な問題であり、配架スペースの確保のため、計画的な除籍を実施している。

(2) 施設、設備等の利用状況

**【資料】 Ⅲ-5-5 各室使用状況（本館）、Ⅲ-5-6 グループ学習スペース及びグループ学習室 5
入室状況（本館）、Ⅲ-5-7 会議室利用状況（本館）**

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会議室以外の利用を停止した。

(3) 評価及び課題

課題

本館は、建築後 32 年が経過し、老朽化が進んでいるため、壁面タイルが剥がれ落ちる恐れのある箇所について補修工事を行う。また、長年使用している設備・機器の更新を行う。